

令和5年度小平市立小平第五小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

情報の扱い方に関する事項は東京都平均を1ポイント下回っているが、その他は全国平均・東京都平均を大きく上回っている。

書くことについては、正答率が31.8ポイントで他の項目に比べるとかなり低い。

課題

記述式の自分の考えをまとめて書く問題の無回答率がかかなり高い。分析により、読取りや考えをまとめることに時間がかかったことが分かった。今後、文章を読み取る力、目的に応じた作文力を一層育む指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・文章の構成をとらえたり自分の考えの根拠となる言葉を叙述から見つけたりする活動を繰り返し行う。
- ・友達と考えを交流させ、いろいろな考え方を踏まえながら個々の考えを構築する場面を設定する。

【算数】

状況の分析

全ての項目で全国平均・東京都平均を大きく上回っている。変化と関係の正答率は82.9ポイントであった。これは昨年度の正答率よりも大幅に高い。一方、記述式問題は正答率が58ポイントで、他の項目と比べると低い。

課題

学習領域では、図形が57.2ポイントで最も低い。また、記述式問題の無回答率が高い。三角形の意味や性質についての基本的な力を定着させるとともに、複数のグラフから分かることを読み取る力を一層高める必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・授業者用デジタル教科書とともに児童用デジタル教科書を効果的に活用し、視覚的な支援を充実させる。
- ・図形の指導では、観察や分類を通した図形の定義、図形の弁別、図形の構成と作図、図形の性質調査の段階を丁寧に踏み、理解を深めさせる。
- ・各グラフの変化の様子から何がわかるかという視点をもつことを繰り返し意識させる。

【質問紙】**状況の分析****課題**

「将来の夢や目標をもっている」「人が困っているときに進んで助けている」児童の割合はとても高い。「困りごとや不安がある時に学校にいる大人に相談できる」児童は東京都全体より 10 ポイント以上低く全体の 60 ポイントに満たない。「学校の授業以外に 1 時間以上学習する」は約 54 ポイントで、全国の割合より少ない。

「自分にはよいところがない」「先生はよいところを認めてくれない」と否定的に答えた児童の割合が東京都全体よりも多いことが分かった。教師は児童との信頼関係を丁寧に築き、学校で困った時にすぐに相談できるようにしていく。また、学校に行くことが楽しいと感じる児童がさらに増えていくように学校経営・学級経営を見直す。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・道徳の学習の中で、自己を見つめる時間を十分にとり、多様な考え方や感じ方が引き出せるように発問を工夫する。
- ・ICT 活用が盛んに行われている半面、SNS を使用する際の家庭でのルール作りは今後の ICT 活用にも直結しているため、徹底を促していく必要がある。保護者会や個人面談、お便り等で呼びかけを継続する。
- ・将来に関することでは、キャリア教育を通して、実際に働いている方の話を聞いたり、SDGs に取り組む企業の話の聞いたりする場をもつことで、自分自身や将来について見つめるきっかけとしていきたい。チャレンジ精神や自己肯定感を高めていくために、行事や縦割り活動等の特別活動の時間を計画的に実施し、自己の振り返りを丁寧に行っていく。